

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2018年5月）議事録

日時：2018年5月18日（金）午後5時30分～7時30分

場所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

西平賀昭、永富良一各副理事長、

碓井外幸常務理事、

宇高 潤、大野 誠、勝村俊仁、川原 貴、

栗原 敏、後藤勝正、坂本静男、須田和裕、

須永美歌子、武政 徹、竹森 重、田中喜代次、

田畑 泉、成田和穂、前田清司、宮川俊平、

宮地元彦、和気秀文各理事、

清田 寛、小林康孝、定本朋子各監事、

山次俊介第73回大会実行委員長

欠席者：小野寺昇、下光輝一、浜岡隆文各理事、

井上 茂監事、戎 利光第73回大会長、

徳田修司第75回大会長候補

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会開催中に前回の理事会議事録の内容確認を行い、訂正等がある場合には申し出て頂くこととし、理事会終了後に承認することにした。

2. 平成30年度決算見込みについて（宮川財務委員長）

資料に基づき、平成30年度決算見込みについて報告があり、特に大きな問題もなく基本的には前年度と大きく変わらないとの説明がなされた。

3. 平成31年度予算案について（宮川財務委員長）

資料に基づき、平成31年度予算案について報告があった。各地方会においてマイナスの予算となっているが、これは各地方会での補助金で内部取引消去のことであり、全体は前年度と大きな変わりはないと説明がなされた。

4. 平成31年度事業計画について（鈴木理事長）

資料に基づき、平成31年度事業計画案についての報告があった。審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることになった。

5. 役員任期について（鈴木理事長）

鈴木理事長より、次のような説明がなされた。

平成26年4月1日付けで、任意学術団体日本体力医学会が法人化され、一般社団法人（一社）日本体力医学会となった。法人化に伴う定款改定によって、定款第25条役員任期の項、「理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げないが、連続4期までとする。監事の任期は4年以内とする。再任は妨げないが、連続3期までとする。」に改定された。選挙で選出された現在の理事24名のうち20名が法人化スタート以来の理事であり、現在3期目である。来年役員選挙があり、20名の理事の多くが選出された場合、4期目となり、それ以降20名の現理事は

一斉に被選挙権を失うことになる。そうすると、例えば、編集委員長、副委員長、30数名に及ぶ編集委員も任期満了となり大半が交代せざるを得なくなり、円滑な編集業務の遂行は困難となる。他の各種委員会も同様となる。この件について、司法書士に相談した処、「定款を改定するしかありませんね」という回答であった旨、報告された。この件に関連して、川原理事より、「理事の年齢制限はないのか？」との質問があった。理事長より、「評議員も理事も年齢制限はない」旨、回答された。また、田中理事より、「結論として、定款変更しかありませんね」との意見が述べられた。

「役員任期について」審議した結果、現行定款を「理事の任期2年以内とする。なお、再任は妨げない。監事の任期は4年以内とする。再任は妨げない。」に改定することが理事会に於いて承認された。9月の社員総会に提案し、承認を得ることになった。尚、司法書士より定款改定の手続きの指導を受けることになった。

6. 学会賞について（前田学会賞選考委員長）

資料に基づき、審査結果が報告された。5月11日に開催された委員会において、学会賞（体力科学）1件、学会賞（JPFMSM）1件、奨励賞は同等の高評価を得た3件を選考したことが報告され、承認された。なお、奨励賞の副賞として20万円を均等割りにしてはどうかとの提案がなされたが、審議の結果、今回の奨励賞の副賞は1件5万円に決定された。

【学会賞（体力科学）】

◎「地域在住高齢者における身体機能評価を用いた認知機能低下者抽出方法の検討」（66巻2号）

木室ゆかり、古瀬裕次郎、畑本陽一、池永昌弘、田中宏暁、檜垣靖樹

【学会賞（JPFMSM）】

◎「DRD2/ANKKI gene polymorphism rs1800497 is associated with exercise habit in the period from childhood to adolescence in Japanese」（6巻2号）

Haruka Murakami, Noriyuki Fuku, Ryoko Kawakami, Yuko Gando, Motoyuki Iemitsu, Kiyoshi Sanada and Motohiko Miyachi

【奨励賞】

◎「日本人小・中学生における体力および肥満度と血中脂質性状との関連性」（体力科学66巻4号）

城所哲宏、枝元香菜子、柳岡拓磨、柏原杏子、田中英登、宮下政司

◎「経時的CT撮影による肝脂肪蓄積の評価と自発的運動の効果」（体力科学66巻4号）

吉村咲紀、富賀裕貴、中島志穂子、伊藤 愛、川上翔太郎、田中宏暁、上原吉就、檜垣靖樹

◎「アイシング処置がラット損傷筋の回復過程に及ぼす影響」（体力科学66巻5号）

池崎和海、芝口 翼、杉浦崇夫、宮田浩文

7. シニア会員、学生会員について（武政総務委員長）

資料に基づき、会費収入を安定的に確保するための方策が報告され、学生会員の新設は学会の経営状態が良くなった際に再度検討することとし、シニア会員は以下の内容で新設してはどうかとの提案がなされ、審議の結果、承認された。

- 1) シニア会員としての条件を満たす場合でも、本人が正会員の継続を望む場合は適用外とする。
- 2) シニア会員は名誉会員に準ずる会員とする。
- 3) シニア会員としての条件
 - (1) 会員歴20年以上である。
 - (2) シニア会員申し込み時の年齢が満70歳以上である。
 - (3) 評議員としての権限（本学会の役員等になるための被選挙権、選挙権）を喪失する。
 - (4) 本学会が発行する機関誌等の受け取りに関しては正会員・名誉会員と同様とする。
 - (5) シニア会員の年会費を5,000円と定める。
 - (6) 学会年次大会参加費等の設定は、大会長に委ねる。
 - (7) 学会発表と論文投稿は正会員・名誉会員と同様とする。

8. 鹿児島大会長候補者について（武政総務委員長）

資料に基づき、鹿児島大学名誉教授の徳田修司評議員が第75回（鹿児島）大会長に推薦され、審議の結果、承認された。

9. 地方会のあり方について

（碓井全国地方会実行委員会業務執行役）

資料に基づき、各地方会における本学会の法人化に伴う規制に対し、地方会のあり方および運営方針を統一すべく以下の問題に対する解決のための草案が報告され、審議の結果、承認された。また、全国地方会実行委員会の新設の背景について、大会運営のための会員や評議員の少ないことによる支援不足を解消するため、県を越えた周辺地域に在住する会員や評議員が集まって地方会を新設していくことを目的としている旨報告がなされた。現況では、新設されたばかりで委員が全て決まらなかったことや、他の本学会委員会との意見交換も十分でなかったこと、さらに各地方会代表および会員への情報伝達遅延等の理由により、全国地方会実行委員会による諸事案解決が困難であったことから、総務委員会や編集委員会等の意見を聴取することにより当面の事案に対処することにし、今日に至った旨、説明がなされた。

- 1) 地方会抄録掲載料の統一および地方会大会参加費
 - (1) 地方会（大会）での発表者および共同演者は、次の①～③に区別される。
 - ①（一社）日本体力医学会会員
 - ②非会員（学部生、大学院生を含む）
 - ③会員ではない特別講演招聘者
 - ①と③が筆頭者として発表した場合、従来通り発表抄録を提出し、「体力科学」に掲載される。この場合、掲載料等は一切徴収しない。
 - ②が筆頭者として発表する場合は3,000円を徴収する。

(2) 地方会大会参加費

地方会大会参加費を徴収するか否かは、会員、非会員、その他を問わず、地方会大会長（当番幹事）に委ねる。尚、参加費を徴収する場合、非会員の筆頭発表者は抄録掲載料3,000円を納入しなければならないことを考慮して、参加費を設定してもらう。

2) 抄録の掲載方法

「体力科学」の投稿規定を「D. 地方会（大会）の抄録原稿は、一編900字以内で表題、著者名、所属、本文を和文で記す。＊提出期限に遅れた場合、本誌に掲載されない。」で統一する。

10. FAOPS2019使途限定寄付金について（鈴木理事長）

公益財団法人 中富健康科学振興財団から栗原理事が表彰され、栗原理事より報奨金のうち100万円を本学会に寄付したいとの申し出があり、使途としてはFAOPS2019に関わるものに限定して欲しいとの依頼があったことが報告された。

11. その他（鈴木理事長）

会員数が少ない地方都市で学会年次大会を開催する際、支援が得られ難いため必ずしも国民体育大会開催県で開催する必要はないのではないか、という意見が挙がっていることに因み、既に体力科学に掲載されている“日本体力医学の源流と変遷”および“日本体力医学会と「体力科学」誌の生い立ちとあゆみ”の別刷が配布され、国民体育大会開催県で体力医学会を開催することになった経緯や意義について説明がなされた。当初は、日本体力医学会開催に際して、国民体育大会開催県から様々な支援や補助金が出ていたが、現在は殆ど無くなってしまった。そこで、今後体力医学会年次大会を開催する方は、国民体育大会開催団体に今日配布した別刷りを持参し、国民体育大会と日本体力医学会との関係をご説明頂き、体力医学会年次大会では大会開催地の市民に対して、健康、運動に関する公開講座等を開き、健康づくりに貢献できるようなイベントも加えて頂き、国民体育大会開催団体からの支援を頂くよう努めて頂きたい旨、理事長よりのお願いがあった。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会（武政委員長）

第74回茨城大会後に第76回三重大会長の推薦を計画している旨、報告された。また、学会総務に関わる規則の見直し（シニア会員の設定）を行う旨、報告された。

2) 編集委員会（田中委員長、後藤副委員長）

資料に基づき、以下の内容が報告された。

- (1) 「JPFMS」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況について
- (2) 学会ホームページの「プライバシーポリシーページ」作成について、Editorial Manager（オンライン投稿審査システム）の仕様変更によるウェブサイト上の「プライバシーポリシーページ」

URLの提出に伴い、個人情報保護法の観点からも早急に本学会の英語、日本語両方のプライバシーポリシーを作る必要があり、その作業を進めている旨、報告された。

(3) 学会誌投稿におけるCOIマネジメントについて、現在、本学会の学会誌のCOIマネジメントに関する事項が投稿規定に記載されていないため、今後の対応について以下の案が提案され、審議の結果、承認された。

(案) 本学会誌では、COIへの記載を求めることとする。記載を求める事項としては以下の通り。

- ①当該研究者の所属企業名(部署名、職名)
- ②当該企業からの出資(出資がある場合)
- ③当該研究への関係企業の関与について(研究結果の学会発表や論文発表の決定に関して関係企業が影響力の行使を可能とする契約の有無)
- ④当該研究結果に影響を与えうる企業からの労務提供としての受け入れになっていないか
- ⑤その他、利益相反として申告すべきこととし記載箇所は参考文献の前とする。また、項目が網羅されていれば簡潔にまとめた記載も可とする。補足) 著者の貢献(Author Contribution)を投稿規定に追加する。

(4) 「ACSM運動処方指針(原著第10版)」の翻訳本の出版について、ほぼ完成しており、今後校正、出版する旨が報告された。

(5) 学術刊行物の編集について、進捗状況と今後の予定が報告された。また、学術刊行物のタイトル、医学用語の表現の統一、学術刊行物の各章について割り当てた編集担当(案)の先生に協力をお願いした。編集担当については本学会会員に限らない旨が提案され、審議の結果、承認された。

3) 学術委員会

(1) スポーツ医学研修会実行委員会(碓井学術委員長)

第29回日本体力医学会スポーツ医学研修会は日本体育大学で実施される旨、報告された。

(2) プロジェクト研究委員会(須田委員長)

第73回福井大会において、研究成果を報告する旨、報告された。

来年度(昨年度終了研究: 1件、未了研究: 1件)

(3) 称号委員会(碓井学術委員長)

日本体力医学会健康科学アドバイザー®の審査をスポーツ医学研修会後の申請により実施する旨、報告された。

(4) ガイドライン検討委員会(勝村委員長)

「少子高齢化」が進行しているわが国における、「健康寿命の延伸」を目指した活動なども視野に入れたガイドラインの作成などを、他の学術団体との協力も含めて進め、また、東京オリンピック2020を視野に入れた、競技スポーツにおける安全対策についても検討していく旨、報告された。

(5) 渉外委員会(永富委員長)

資料に基づき、以下の内容が報告された。

(1) 国際交流事業

①第72回日本体力医学会大会(愛媛)における国

際交流事業について

②ECSS 2018 Dublin 2018.7.4-7について

③国際学術交流奨励賞について、受賞が一部に偏っているとの意見があることから審査について公平に行う事とした。

(2) 国内関連学術団体との交流・連携

①脳心血管病予防に関する包括的管理チャートの改訂について

②日本生理学会との連携について

③日本抗加齢医学会との連携について

(3) 日本体力医学会の活動の国内外に対する見える化

広報委員会との連携について、現在は具体的なアクションにつながっていない旨、報告された。

6) FAOPS2019運営委員会(和気委員長)

資料に基づき、以下の内容が報告された。

①2018年3月28日(水)に高松市(サンポートホール高松)に於いてFAOPS2019拡大組織委員会が開催され、参加登録、一般演題登録、トラベルグラント申請の受付期間ならびに参加登録費について概ね以下の案で計画している旨、報告された。なお、一部継続審議中である旨、追加報告された。

●参加登録期間および登録費

8月1日-10月31日 Early 25,000円

(大学院生 15,000円, 学部学生 10,000円)

11月1日-12月20日 Regular 30,000円

(大学院生 20,000円, 学部学生 10,000円)

12月21日-2月28日 Late 35,000円

(大学院生 25,000円, 学部学生 10,000円)

当日参加費 40,000円

(大学院生 30,000円, 学部学生 15,000円)

●一般演題登録期間

8月1日-10月2日

●外国人来日トラベルグラント申請期間

8月1日-10月7日

②一般演題における、本学会に関連した研究分野カテゴリーとしてExerciseを追加し、1. Molecular & integrative physiology of exercise, 2. The physiological bases of exercise for health, 3. Exercise; othersの3つに細分化することとなった旨、報告された。

③FAOPS2019において平昌五輪金メダリストの小平奈緒選手が講演すること、日本生理学会と本学会の共同主催で開催準備を進めている旨、報告された。

④公募シンポジウム(5月7日締め切り)に本学会に関連した研究テーマの申請が1件あった。採択された場合は開催に向けた支援を行う旨、報告された。

⑤軽食(ランチョンではなく)を配る共催セミナーについて現在検討中である。また引き続き、協賛企業を募集している旨、報告された。

7) 利益相反委員会(宮地委員長)

資料に基づき、以下の内容が報告された。

(1) 体力科学, JPFSMの投稿規定におけるCOI開示項目を編集委員会と協力して検討していく旨、

報告された。

- (2) 日本体力医学会大会におけるCOI開示の方法を検討していく旨、報告された。
- (3) 策定から4年が経過した「利益相反(COI)に関する運用指針」の加筆、修正を検討していく旨、報告された。

上記計画を遂行するため、メール審議に加え、会議を年度内に最低1回開催する旨、報告された。

また、第4回研究倫理教育研修会に参加し、以下の報告がなされた。

研究に関しては今まで倫理指針に基づいて実施されていたが、今回、臨床研究法という法律が制定され、研究のやり方に対する規制が徐々に厳しくなりつつある現状にある。臨床研究法がカバーする研究の領域は、医学的に新しい薬や医療機器等を試す治験に近いような研究が対象となる旨、報告がなされた。今後の動向を倫理委員会と協議しながら見ていく必要がある旨、報告がなされた。

また、COI管理について、COIを開示することは研究者や本学会自体を守るという趣旨である旨、報告がなされた。仮に企業からお金をもらって研究をやることは悪いことでなく、そのことによって生じるデータのねつ造や改ざん等は可否に関わるが、お金を受け取って研究しているということを明らかにしていくことが重要である旨、報告がなされた。また、年々、利益相反の考え方が新しくなっている状況であるので情報共有を徹底していく旨、報告された。

8) 全国地方会実行委員会(竹森委員長)

- (1) 学会本部と地方会間の連絡と対応すべき問題の吸い上げについて
- (2) 会員低密度地域(特に地方会空白地域)の体

力医科学活動(大会開催を含む)支援の調整をしていく旨、報告された。

2. 第73回(福井)大会の進捗状況

(山次第73回大会実行委員長)

配布資料に基づき、大会の特別講演等準備状況について報告された。演題登録者の年会費未納の対応について提案された。審議の結果、5月末に演題登録を締め切り、6月1週目で会費納入状況を本部事務局で確認し、未納者へ年会費振込依頼の連絡をする形で進めることとなった。また、要旨について未納者も抄録掲載することとするが、会費の納入が確認できなかった場合には、抄録掲載を取り消すこととなった。

会期：2018年9月7日(金)～9日(日)

会場：AOSSA, ハピリン

テーマ：しあわせ元気なふくいでつむぐ体力医学
～QOL維持・向上の運動効果～

3. 第74回(茨城)大会の進捗状況

(前田第74回大会長代理)

配布資料に基づき、大会の準備状況について報告された。

会期：2019年9月19日(木)～21日(土)

会場：つくば国際会議場

テーマ：元気な人と社会をはぐくむスポーツ医科学の
挑戦

4. 第75回(鹿児島)大会の進捗状況(武政総務委員長)

大会の準備状況等について報告された。

会期：2020年9月頃

会場：鹿児島大学